

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>日本植物学会第82回大会（広島国際会議場，2018年9月14-16日）</p>
<p>演題名</p>	<p>光環境が微細藻類<i>Euglena gracilis</i>のカロテノイド合成に及ぼす影響</p>
<p>発表者</p>	<p>★丹野夕麗1)、*加藤翔太2)、高市真一4)、石川孝博5)、児玉豊6)、田中裕之7)、朝比奈雅志1,2,3)、高橋宣治1,2)、篠村知子1,2)                  所属：1) 帝京大・院・理工、2) 帝京大・理工・バイオ、3)帝京大・先端機器分析センター、4)東京農大・生命科学、5) 島根大・生物資源 6) 宇都宮大・バイオセンター 7) 東工大・生命理工（★は帝京大の大学院生、*印は帝京大の博士研究員）                  【植物分子細胞学研究室】</p>
<p>内容</p>	<p>微細藻類<i>Euglena gracilis</i>の強光下における光阻害を回避する機構として、私たちはカロテノイドの機能に注目しています。複数の二次共生を経て成立した<i>E.gracilis</i>は、高等植物や緑藻とは異なるカロテノイド分子種を持つことから、その合成経路の光調節機構はたいへん興味深い課題です。本発表では、<i>E.gracilis</i>を明暗サイクルや単色光などの光環境で培養し、カロテノイド合成系遺伝子群の発現レベルやカロテノイド分子種の蓄積量を調べた結果を、本学大学院生の丹野夕麗君（M2）が、日本植物学会の第82回大会における「環境応答」のセッションにおける研究発表（口頭発表）として報告しました。                  本研究の一部は科学研究費補助金(基盤研究C 17K07945)の支援を受け、H30年度の本研究室の博士研究員や学内外の研究者と共同で行いました。</p>
<p>関連画像</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="506 1377 978 1970"> </div> <div data-bbox="1062 1466 1682 1911"> </div> </div>